

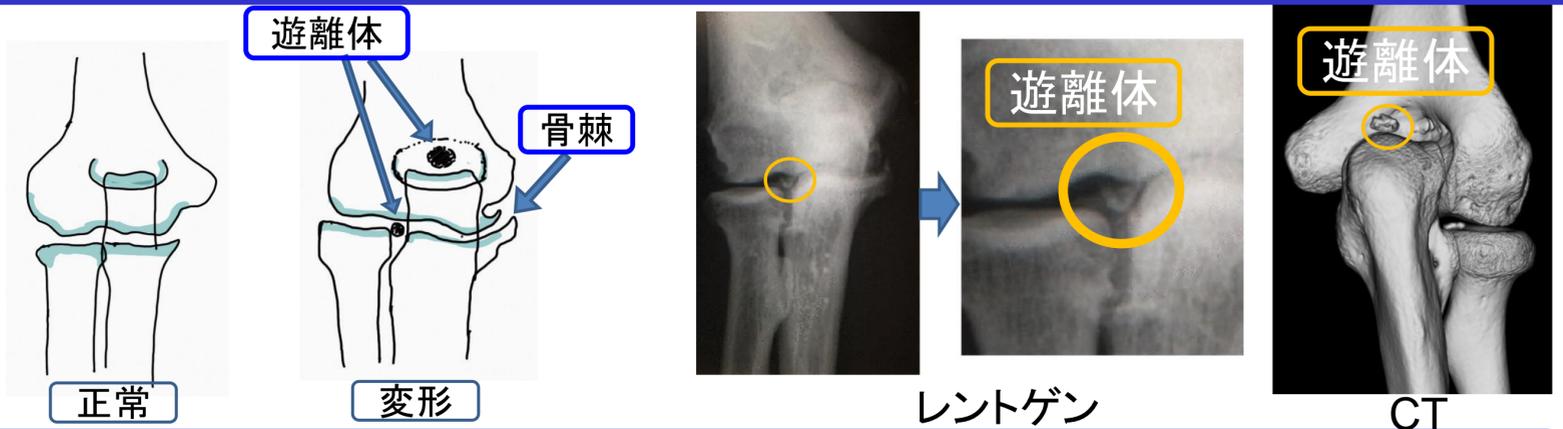
## Q1. なぜ肘が動かしづらくなるの？

- ・ 肘関節の酷使(スポーツ、重労働)、肘関節内骨折などの肘関節外傷、関節炎などが原因としてあげられます。
- ・ 病態は、関節軟骨が摩耗して骨が関節面に露出し、主に内側では過剰な骨の突起(骨棘)ができます。
- ・ 骨棘は出っ張っているため関節の動きを制限します。
- ・ 進行すると骨棘が折れてかけらとなり、関節内の遊離体となって引っかかり、ロッキング(急に屈伸ともにある角度で肘が動きづらく固まった状態)の原因となります。



## Q2. 手術前の検査は？

レントゲンやCT・MRIをおこない、骨棘や遊離体の位置を確認します。



## Q3. 手術はどのように行っているの？

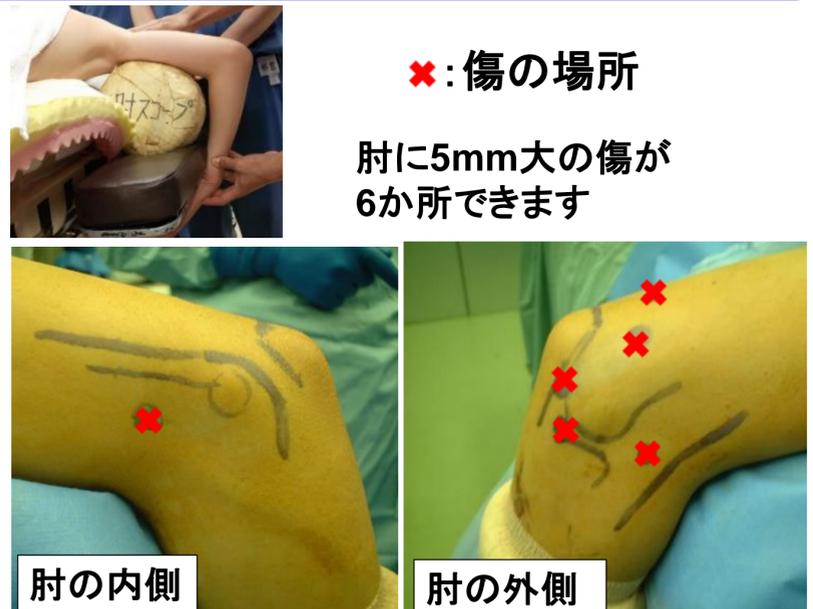
### 遊離体(関節ねずみ)摘出術

関節鏡(カメラ)で手術を行います

うつぶせ  
右肘の手術

×: 傷の場所

肘に5mm大の傷が  
6か所できます



## Q4. どのような麻酔をしているの？

➤ 経験豊富な麻酔科医の管理のもと、全身麻酔で手術をおこないます。

**全身麻酔** = 手術室に向かう前に、病棟で点滴を留置します。

手術室で点滴から薬をいれて眠った状態で手術を行います。

**痛み止め** = 手術が終わった後は、退院まで食後と寝る前に鎮痛薬を内服します。

さらに痛みが強い場合は筋肉注射や坐薬を追加します。

## Q4. 入院期間は？

➤ 遊離体摘出術、骨棘・滑膜切除の手術は、2泊3日～1週間の入院となります。

## Q5. 退院後の生活は？ 装具などの固定は必要なの？

➤ 退院後の生活については、特に制限はありません。リハビリテーションを痛みに応じておこなっていきます。

➤ 創部にガーゼやテープ保護を抜糸までおこないます。特にシーネや装具などの固定はありません。

## Q6. 仕事復帰や競技復帰の時期は？

肘の腫れが治まってから徐々にリハビリでの負荷を上げていきます。個人差もありますが、スポーツ復帰までは1-3か月と考えています。